

ゴーマンCEO、米利上げ継続を予測

景気後退の可能性「5%未満」

米モルガン・スタンレーのジェームス・ゴーマン会長兼最高経営責任者（CEO）は日本経済新聞の取材に、米シリコンバレー銀行（SVB）破綻などで金融システムが揺らぐ現状を「銀行危機とは思わない」と述べた。米連邦準備理事会（FRB）の追加利上げは年内に最大2回とし、「年内の利下げが必要になるとは全く思っていない」との認識を示した。

ゴーマン氏は個別の銀行が危機的な状況になつた原因は「銀行が資産と負債の管理を誤つたことによるに起因するにすぎない」と指摘した。そのうえで「（銀行システムは）極めて健全だ。過去とは大きく違っている」と話した。



米モルガン・スタンレーのゴーマンCEO

ゴーマンCEOの発言要旨
金融不安について
◆銀行危機にあるとは思っていない。（銀行システムは）引き続き堅固で健全な状態を保っている。過去とは大きく違っている
◆いくつかの金融機関は（商業用不動産向けのローンで）損失を被る可能性があるが、大規模な経済危機を引き起こすものにはならないだろう
◆グローバルなシステム上重要な銀行（G-SIBs）は極めて順調に業務を続けている。大手銀行についてはしっかりと規制が行き届いている
米国の金融政策や景気について
◆（FRBの追加利上げは）1回が想定されるし、2回もあり得るかもしれない。3回はないだろう。米国の失業率は3.5%と低い状態で、年内に利下げが必要になるとは全く思っていない
◆（米景気後退りの可能性は）50%未満だろう。景気後退に突入しても、深刻なリセッションを想定していない。短期間にすぐに終わる景気後退ではないか
三菱UFJとの提携や日本の経済について
◆（三菱UFJフィナンシャル・グループとの関係は）数十年続くアライアンスだと言いつけている。そろそろ恩恵があつてこそ提携関係は機能する
◆日銀が金融政策を急激に見直していくのは間違いないと思う。緩やかで段階的に修正していくとみている
◆日本の本質的な問題は出生率の低下による人口減。必要なのは移民受け入れのような解決策だろう

受けで苦戦したが、堅調な富裕層向けビジネスが収益全体の落ち込みを最小限に食い止めた格好だ。ゴーマン氏は「（モルガン・スタンレーについて）市場は世界で有数の投資銀行でありながら、世界最大級のアセットマネジメント（資産運用）会社とみているのではないか」と話す。QUICK・ファクトセットによると、4月24日時点の株式時価総額は1517億ドルで、ゴールドマン・サックス（1153億ドル）を上回る状態が続いた。

ゴーマン氏は10年にCEOとなり、12年から会長を兼務する。08年秋に起きたリーマン・ショックの余波で経営危機に直面した会社の再建を主導した。業績の変動が激しい投資銀行に頼るのでなく、富裕層向けの資産管理や運用を強化して収益力を高めてきた。

ゴーマン氏は今回のインタビューで「時期は明かり」と話した。富裕層向けのビジネスなどで三菱UFJとの協業を深める考えを示した。富裕層向けのビジネスなどで三菱UFJとの協業を深める考えを示した。富裕層向けのビジネスなどで三菱UFJとの協業を深める考えを示した。

ゴーマン氏は今回のインタビューで「時期は明かり」と話した。富裕層向けのビジネスなどで三菱UFJとの協業を深める考えを示した。富裕層向けのビジネスなどで三菱UFJとの協業を深める考えを示した。

ゴーマン氏は今回のインタビューで「時期は明かり」と話した。富裕層向けのビジネスなどで三菱UFJとの協業を深める考えを示した。富裕層向けのビジネスなどで三菱UFJとの協業を深める考えを示した。

ゴーマン氏は今回のインタビューで「時期は明かり」と話した。富裕層向けのビジネスなどで三菱UFJとの協業を深める考えを示した。富裕層向けのビジネスなどで三菱UFJとの協業を深める考えを示した。

ゴーマン氏は今回のインタビューで「時期は明かり」と話した。富裕層向けのビジネスなどで三菱UFJとの協業を深める考えを示した。富裕層向けのビジネスなどで三菱UFJとの協業を深める考えを示した。

ゴーマン氏は今回のインタビューで「時期は明かり」と話した。富裕層向けのビジネスなどで三菱UFJとの協業を深める考えを示した。富裕層向けのビジネスなどで三菱UFJとの協業を深める考えを示した。

言えないが（CEOの交代期は近づいている）銀行の平野信行・特別顧問は昨年5月の株主総会でモルガンの取締役を退いた。提携の重みを知る

ゴーマン氏も要職を降りた。提携の重みを知る

ゴーマン氏も要職を降りた。提携の重みを知る

ゴーマン氏も要職を降りた。提携の重みを知る